



相倉集落 (春の風景)

富山県の南西端に位置する南砺市の山間地域「五箇山」は、白山国立公園に含まれる一、五〇〇ト級の山々に囲まれ、冬には積雪が三メートルになる豪雪地帯です。平野部とは地理・自然条件が大きく異なるため、独特の文化を形成してきており、一級河川「庄川」の谷間



合掌造り家屋は、全国でも五箇山と白川郷及び両地域に隣接する一部にのみ見られる独特の建築様式で、その数は最大一、八五〇棟余りでしたが、戦後の経済発展と



菅沼集落 (秋の風景)

に沿って四十の集落が点在しています。そのうちの相倉集落と菅沼集落が一九九五年、岐阜県の白川郷荻町集落と共に、日本で六番目となるユネスコ世界遺産に登録されました。特徴的な合掌造り家屋群を中心とする農村景観と今尚そこに残る人々の暮らしが、世界的に価値のある貴重な文化遺産であると評価されました。

生活の近代化の中で急激に減少し、現在では白川郷と五箇山で二百棟以下となり、一棟一棟が大変貴重な存在となっています。現存する合掌造り家屋は約百年から二百年前のものが多く、古いものは四百年前にもなります。合掌造り家屋の建築様式が完成したのは江戸時代中期で、その頃五箇山では、養蚕の他、火薬の原料となる塩硝や和紙の製造が加賀藩から奨励され、こうした仕事に適した高層の建築として発展したと考えられています。一階は居住と塩硝の生産や紙漉きが行われ、二階以上は養蚕のための広い作業空間でした。一階の囲炉裏から昇る熱気は、蚕室を暖め、煙が木材や茅葺屋根を燻すことで長持ちさせました。合掌造り家屋は、最も発達した合理的な民家形式の一つであり、日本の木造文化を代表するものです。「合掌」は、仏を拝む時の姿に由来し、まるで天に向かって手を合わせるような合掌屋根が、五箇山の暮らしを守ってきました。外の世界から閉ざされた雪深い五箇山の冬。合掌造り集落

生活の近代化の中で急激に減少し、現在では白川郷と五箇山で二百棟以下となり、一棟一棟が大変貴重な存在となっています。現存する合掌造り家屋は約百年から二百年前のものが多く、古いものは四百年前にもなります。合掌造り家屋の建築様式が完成したのは江戸時代中期で、その頃五箇山では、養蚕の他、火薬の原料となる塩硝や和紙の製造が加賀藩から奨励され、こうした仕事に適した高層の建築として発展したと考えられています。一階は居住と塩硝の生産や紙漉きが行われ、二階以上は養蚕のための広い作業空間でした。一階の囲炉裏から昇る熱気は、蚕室を暖め、煙が木材や茅葺屋根を燻すことで長持ちさせました。合掌造り家屋は、最も発達した合理的な民家形式の一つであり、日本の木造文化を代表するものです。「合掌」は、仏を拝む時の姿に由来し、まるで天に向かって手を合わせるような合掌屋根が、五箇山の暮らしを守ってきました。外の世界から閉ざされた雪深い五箇山の冬。合掌造り集落



◆所在地
相倉合掌造り集落…富山県南砺市相倉
菅沼合掌造り集落…富山県南砺市菅沼
◆アクセス
【公共交通】JR城端駅発世界遺産バス
白川郷行き 相倉…約二十五分、菅沼…約四十分
【自動車】東海北陸自動車道五箇山ICから 相倉…約十五分、菅沼…約二分



菅沼集落 (冬のライトアップ)